

第2回北海道地域学校協働活動推進研修会（道南会場）

【道南】平成29年10月20日（金）（函館市・渡島合同庁舎） 参加者：54名

1 説明「地域学校協働活動等について」

説明者 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴宏

「今後の地域における学校との協働体制の在り方（中教審答申のポイント）」「北海道の各事業の現状（放課後子ども総合プラン連携型・一体型の状況等）」、「放課後子ども総合プランの推進」、「一体型や連携型の取組事例（恵庭市、厚沢部町の取組）」について説明がありました。

参加者からは、「制度や動向など、基礎的なことについて学びを深めることができました」「クラブ数が増えている現状から、一体型のよさを理解することができました」「一体型の取組事例を今後研修したい」などの感想が寄せられました。



2 事例発表「七飯町学童保育クラブの事例」

報告者 ひまわりクラブ放課後児童支援員 林 幸子氏
あおぞらクラブ放課後児童支援員 橘 優子氏

七飯町学童保育クラブひまわりクラブ（大中山学区）とあおぞらクラブ（藤城学区）の取組から、「学校との連携」、「保護者との関わり」、「活動の工夫」、「支援員としての心がけ」についての事例発表がありました。

参加者からは、「他の学童クラブの様子を聞く機会が無いので、事例を聞いてよかったです」「貴重な現場の声を聞くことができよかったです」「具体的な事例をもう少し聞きたかった」などの感想が寄せられました。



3 コーディネーター研修

講師 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴宏

演習をとおして地域学校協働活動における地域住民のニーズ、教育資源に関する情報収集と分析について説明がありました。

また、地域学校協働活動につながる諸活動、地域コーディネーターの役割や具体的な活動事例について、理解を深めるとともに、円滑に活動を進めるためのコミュニケーションについて、参加者同士で体験をしながら学びました。

参加者からは、「KJ法の取り入れ方やファシリテーターに求められる技能など参考になりました」、「有意義で貴重な交流もあり大変勉強になりました」などの感想が寄せられました。



4 選択研修「課題解決のためのスキルアップ」

A 演習「特別な支援を要する子どもへの対応」

講師 渡島教育局教育支援課義務教育指導班指導主事 吉田 卓郎

「特別支援の現状」、「発達障がいの理解と対応」について、参加者同士で現状を話し合ったり、障がいのある立場についての体験をしたりしながら、講義を実施しました。

参加者からは、「このような子は年々増えているので貴重な学びになりました」、「LDやADHDの子の字の見え方など理解できました」、「今後は、1人1人に合った手立てを心がけたいです」、「対応の仕方など、学校との連携も大切だと感じました」などの感想が寄せられました。



B・D 演習「たのしい科学実験」

講師 サイエンスサポート函館科学楽しみ隊 井上 千加子 氏
笹原 悟 氏

身近な材料を使って、短時間で簡単にできる科学実験「ムラサキイモで七変化（水溶液の実験）」、「空気砲」、「砂鉄スライム」、「やじろべえ作り」などを体験しました。

また、子どもの不思議を喚起し、学びにつなげる声かけ等について説明がありました。

参加者からは、「大人も楽しかったので、子どもと良い時間が作れそうです」、「すぐにやってみます」、「工夫次第でもっと発展できそうなので、帰ってからが楽しみです」などの感想が寄せられました。



C 演習「創作活動プログラムの展開」

講師 道立青少年体験活動支援施設ネイバル森 社会教育主事 高橋 枝里子

活動における安全確保や声かけの仕方、子どもの意欲や豊かな発想などを喚起する方法についての説明の後、どんぐりやまつぼっくりなどの木の実や、枯れ葉や枯れ枝を使った工作「森の仲間たち」を実際に制作しました。

参加者からは、「子どもと同じ気持ちで、時間を忘れて楽しく活動できました」、「考えて作る楽しさをあらためて知ることができました」、「町の事業で実施します」などの感想が寄せられました。



5 情報交流「子どもたちのために、私たちにできること」

進行 渡島教育局教育支援課社会教育指導班 社会教育主事 佐々木 智史

参加者が多くの情報を持ち帰ることができるよう、様々な所属団体で構成した3つのグループに分かれて、意見交流をしました。

それぞれの立場から、「どのような子どもを育てたいか」、「そのためにどんな連携ができるか」について話し合いました。

参加者からは、「いろいろな立場の方々の子どもの対する想いを感じることができました。ぜひ、実践につなげたいです」などの感想が寄せられました。

